

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策(松江市全体～小学校・義務教育学校前期課程)

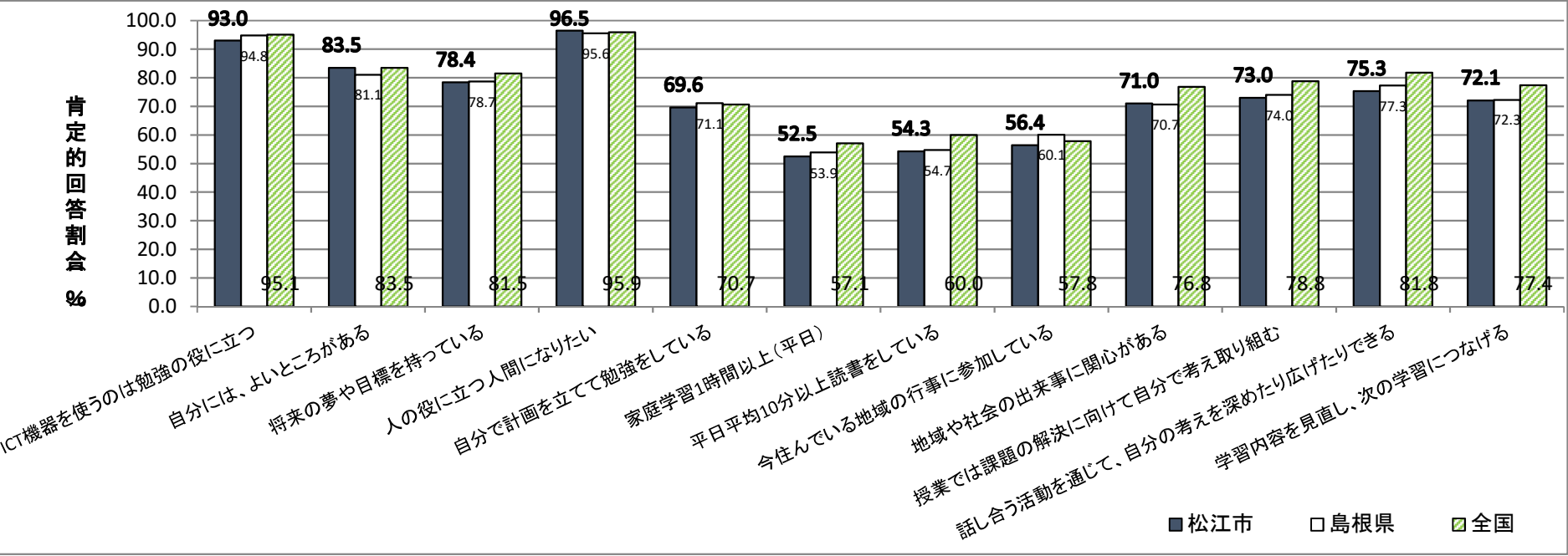
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
国語	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことや、日常の敬語について理解すること。 ●目的に応じて、文章と図表やグラフなどを結び付けるなどして必要な情報を見つけること。 ●目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること。	・目的や意図を明確にした言語活動をとおして、文章や図表グラフなどの複数の情報から必要な事柄を取り出したり関係づけたりする仕方を理解させ、活用する学習の機会を積極的に設ける。 ・話し合いや対話などの活動においては、互いの話の意図や内容などの展開を意識し、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる学習の機会を積極的に設ける。
算数	○式が示された計算問題を正しく計算すること。(一の位が0の二つの2位数の乗法の計算) ●図形を構成する要素などに着目して面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。(高さの具体的な長さが分からない三角形の面積の比較) ●式や筆算を具体物や図と関連付けて考察し、計算のきまりや計算に関して成り立つ性質、式の意味について理解すること。(加法と乗法の混合した計算、分配法則、筆算の各段階の意味)	・面積等を求める「公式」について、単純に数値を当てはめて計算できるようにするだけでなく、「ある要素の具体的な長さが分からない」「計算に不要な数値が記載されている」場合等の問題を取り上げ、図形を構成する要素(底辺、高さ等)の関係に着目して、公式と図形の意味や性質を考え、「問題の解決に必要な条件」や「計算に必要な数値」を見いだす活動を取り入れる。 ・場面を式や筆算に表す際に、具体物の操作や図を基に「考えを説明する活動」を取り入れたりと、反対に友達や教師が表した式や筆算について、具体物の操作や図と関連付けて「式を読んで考察する活動」を取り入れたりする。

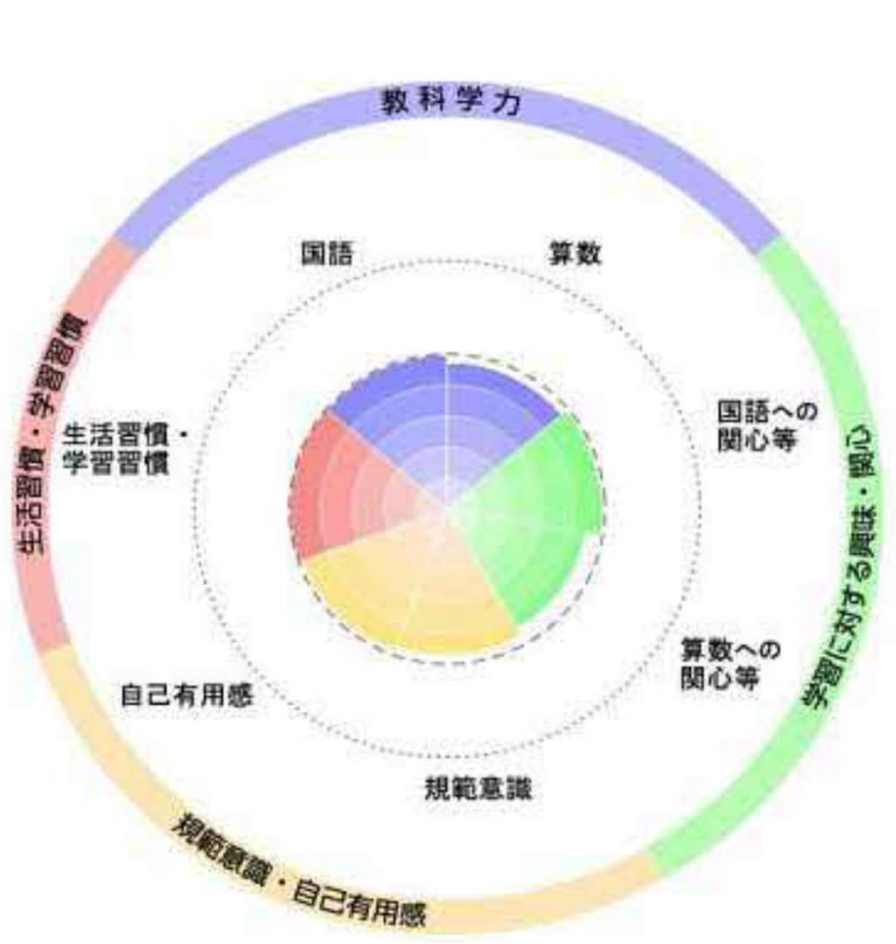
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
質問紙	○「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣が引き続き定着している。 ○「人の役に立ちたい」という思いを持っている割合が高い。 ●学んだことを生かす活動の割合が低く、活動が十分でない。 ●算数の勉強に対する肯定的な回答割合が特に低い。	・人の役に立ちたいと考えている児童が多いことから、友達や異学年、地域等、人とのかかわりを生かした教育活動を系統的に教科横断的な視点で計画し、個や集団の力が発揮される「学びの機会」と「活動の達成感」を得られるようにする。 例)2年生活科で「育てたじゃがいも」について、国語「観察して書く」、算数「グラフと表、長さ、分数」等の学習を生かし、地域のじゃがいも博士に発表する。また、この学びをいかし、3年国語「調べてわかったことを伝える」につなげる。教科の中で学びを閉じるのではなく、系統的・横断的に捉え、人とのかかわりを活用することで、より深い学びへつなげる。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、松江市教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【参考】平均正答率(%)

	松江市	島根県	全国
国語	66	65	67.2
算数	59	59	62.5

【受検者数】 1,636 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。